

「鹿島小学校のツーロ（盆灯籠）伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立鹿島小学校

2 学年・人数

3年生4人，4年生6人（計10人）

3 日時・場所

(1) 日時・場所

令和3年10月～11月（全5回）ふるさと・コミュニケーション科

（本校3・4年教室）

(2) 発表の日時・場所

① 令和4年1月7日（金）～里港フェリーターミナル

② 令和4年1月17日（月）～鹿島地域コミュニティーセンター

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

ツーロ（盆灯籠）づくり（つーろづくり）

(2) 由来

鹿島地域の初盆を迎えた家では，8月13日にツーロー対と親戚や知人から送られた盆提灯を仏前に供える。また15日夕方から墓前に，16日には地元の寺である徳船寺にツーロを持ち寄って飾り，共同で故人の冥福を祈り供養する。これを万灯絵と称し，籠流しの一つの形と言われている。

手作りの盆提灯を飾るのは県内でも珍しく，甕島では鹿島地域だけである。平成13年12月17日付で市有形民俗文化財に指定された。ツーロは誰でも容易に作れると思われていたが，過疎化や高齢化等の理由により制作できる人が減少してきている。町民にとっては身近な文化財のため，県内でも珍しく貴重な文化財という意識が薄く，認識を高める必要があるとともに，教材化を図る意義は十分にあると考え，昨年度から中学年で実践を行っている。

(3) 構成等

手作りの提灯で切り子の枠の四面に和紙を貼り，その外側に透かし切りの家紋等を配し，蓮の造花を飾り付け，透かし切りした縦長の和紙を垂らしたもので，全て児童の手作りで製作を行った。

5 保存会や地域との連携の具体

ふるさと・コミュニケーション科の中で制作活動等を位置づけ，地元の制作者の一人である南重一郎氏の指導をいただいた。地域の歴史や文化について知るよい機会となった。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

地元の作り手の方の協力をいただきながら、有形民俗文化財であるツーク制作を通して、地域に伝わる歴史や文化について理解を深めていった。また、地域へ情報発信する機会として、公共施設にて展示することを目標とした。児童は学習を通して、地域に伝わる有形民俗文化財について自分なりの考えをもつことができた。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



作成の様子①



作成の様子②



作成の様子③



里港ターミナルでの展示発表

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【3年生児童】

3年生になって初めてツークづくりをしました。細かい作業だったので、とても難しかったです。だけど、やっていくうちにどんどんできるようになったので、楽しかったです。ツークが完成するまでにすごく時間がかかることを、初めて知りました。

【教職員】

ツーク作り2年目となったが、初めて経験する児童が多く、高い関心と意欲で臨む姿が見られた。活動のメインとなる「切り絵」作業では、慣れない道具や細かい図案に戸惑いつつも一つ一つ丁寧に集中して取り組み、少しずつ完成していくツークの姿をみんな嬉しうることができた。また、フェリーターミナルや公民館での展示を通して、地域や観光客への情報発信もできた。今回の学習は、地域の伝統やそれを守る人の思い等を学び知る貴重な機会となった。